森林の譚

二十一世紀の森づくりシリーズ　85

一月の木の花

今年1年は、月ごとに私たちを和ませてくれる、木に咲く花を紹介いたします。

1月はツバキを選びました。

ツバキは2度目の掲載になります。

ツバキは、毎年11月から4月まで咲き続けます。

1月は花の少ない時期で、同時期の木の花はサザンカのほうが優勢です。ただ初春の花としてツバキは印象深い花で、新年の晴れた南向きの山や庭に咲く赤い花は、春の訪れを予感させる美しい花です。

濃い緑の葉で、その表面は艶やかに光っています。このような葉を持つ常緑樹を照葉樹と言います。一説によれば、この照葉樹林と人間とのかかわりが密接であると主張する民族学者もいます。

簡単に言えば、この照葉樹林帯は極めて豊富な動植物の生息や、複雑で高度な生物分布を可能にしているということです。

たかがツバキの木、されどツバキの木です。

月々の花を調査し、紹介します。あなたならどの花をその月の花とするか12月までお付き合いください。

次回はウメです。

（自然教育林事務局長）

◇　◆

珍しい木・想い出の木・不思議な木・植物好き・花好きなど、木にまつわるおもしろい話を教えてください。

▼連絡先　歴史民俗資料館

☎932・6312

歴史民俗資料館　昔の生活民具シリーズ…50

注連飾り

今回は、注連飾りについて紹介します。

注連飾りは正月などに、家屋の入り口、門松、床の間や柱につける飾りのこと。我が家では写真のような形のものを、毎年玄関のところに飾っています。

もとは一本の縄であったそうで、近年では装飾的になり、現在見られるような形になっています。飾り方はその地域や家庭の慣習などで様々です。

また、注連飾りにつけるものとしては裏白、橙、譲葉が一般的なようです。

裏白は、ウラジロ科の常緑性シダ植物。葉の裏が白いことから白髪になるまでという長寿の願いがこめられており、また、左右に開く大きな葉は諸向といって、夫婦仲が良いことを表しているとのことです。

橙は、ミカン科の常緑小高木。実は冬に黄熟したものが、翌春には再び緑色を帯びるとのことで、冬を経ても実が落ちないため、「代代（ダイダイ）」、何代も続く家に見立てられ、目出度いものとされています。

譲葉は、ユズリハ科の常緑高木。その名は新しい葉が出てから古い葉が落ちるとこに由来します。家督を親から子へゆずり、代々続くことを願う気持ちが込められています。

（参考文献＝大辞林）

（館長）

すこやか・ぺったん・ふれあい　校区がひとつに！
校区コミュニティ祭り開催

須恵町には、3つの小学校があり、その小学校を単位とした「校区コミュニティ祭り」が、11月7日（日）に第一小学校と第二小学校で、同月14日（日）に第三小学校でそれぞれ開催されました。

第一小学校区は「すこやか秋まつり」、第二小学校区は「ぺったんフェア」、第三小学校区は「ふれあいまつり」と題して開催されました。

各校区とも、コミュニティ祭り実行委員会を開き、企画、検討を重ね、それぞれの特色を生かしたプログラムが組まれ、たくさんの人で賑わっていました。

▲▼第一小学校区▼

▲▼第二小学校区▼▲

▼　第　三　小　学　校　区　▼▲